

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称: **ライフポイント**[®]

追加型投信 / 内外 / 複合資産

2009年10月 - 月次レポート

市場の動き

10月の海外株式相場は一進一退の展開となりました。米国では、良好な企業決算が相次いだものの、9月の雇用統計や住宅、消費関連指標の悪化等を受けて景気回復への期待感が後退しました。また、7-9月期の実質GDP(国内総生産)(速報値)が市場予想を上回ったものの、政府の経済対策の影響が大きく、これらが終了した後の景気について懸念が高まりました。ユーロ圏でも、市場予想を下回る経済指標が相次ぎ、景気回復への期待感が後退しました。こうした中、海外株式相場は、月前半は、市場予想を上回る企業決算や経済指標等を受けて上昇基調となりました。しかし、月後半には、市場予想を下回る経済指標等を受けて景気回復への期待感が後退し、下落基調となり、最終的に前月末を下回る水準で終わりました。

国内では、大企業製造業DI(業況判断指数)が2期連続で改善し、9月の鉱工業生産指数(速報値)がアジア向け輸出の回復等を受けて7ヵ月連続の上昇となる等、国内景気の回復基調が崩れていないことを示す経済指標が続きました。9月の完全失業率は小幅に改善し、雇用環境は依然厳しいながらも、悪化のペースに歯止めがかかりました。こうした中、国内株式相場は、円高による企業業績の悪化懸念等を受けて下落して始まりました。月半ばにかけて、米国企業の好決算等を受けて上昇に転じたものの、月後半には、世界的な景気回復見通しの後退、航空大手の再建問題や財政悪化懸念等の政治要因が嫌気され、再び下落に転じ、最終的に前月末を下回る水準で終わりました。

海外債券相場は一進一退の展開となりました。前月末に3.3%台前半であった米国10年物国債利回りは、経済指標や企業業績の改善、利上げ観測の高まり等を背景に上昇基調(債券価格は下落)で推移しました。月末には、金融機関の破綻懸念等を受けて低下しましたが、最終的に3.3%台後半で月を終えました。前月末に3.2%台前半であったドイツ10年物国債利回りもほぼ同様の展開となり、最終的に3.2%台前半で月を終え、前月末に比べ若干の上昇となりました。

国内債券相場は下落しました。前月末に1.3%台前半であった10年物国債利回りは、月初の株式相場の下落等を受けて低下して始まりました。しかし、その後は、株式相場の上昇や2010年度の予算編成に伴う国債増発懸念の高まり等を背景に急速に上昇し、最終的に1.4%台前半で月を終えました。為替市場では、ドル/円相場は1.1%の円安、ユーロ/円相場は2.1%の円安となりました。

ライフポイント

ライフポイントは、お客様の長期的な資産形成をお手伝いするために、世界の大手年金基金等の大規模機関投資家が使用している分散投資アプローチを投資信託としてご提供するプログラムです。

ラッセルの“マルチ・マネージャー・ファンド”を利用し、“マルチ・アセット(資産区分の分散)、マルチ・スタイル(運用スタイルの分散)、マルチ・マネージャー(運用会社の分散)”という、3段階のリスク分散により、リスク・コントロールを可能にしたポートフォリオをお客様にご提案致します。

ラッセル・インベストメントグループ

ラッセル・インベストメントグループは、現在世界46カ国において、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。

グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っており、現在当グループが提供するファンドの運用資産総額は約16兆円[※]となっています。(※ 2009年9月末現在、為替換算レート: 89.53円/ドル)

ラッセル・インベストメント株式会社

これまでラッセル・インベストメントグループが世界で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、日本の投資家の皆様にご提供致しております。

月次レポート

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称: **ライフポイント**[®]

追加型投信 / 内外 / 複合資産

◆ 基準価額、純資産総額 (設定日: 2006年4月28日)

	基準価額			純資産総額
	前月末	今月末	前月末比	
安定型	9,472円	9,466円	-6円	237百万円
安定・成長型	8,282円	8,284円	2円	1,022百万円
成長型	7,197円	7,219円	22円	508百万円

◆ 基準価額騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
安定型	-0.1%	2.3%	8.0%	12.9%	-5.2%	-5.4%
安定・成長型	0.0%	1.1%	10.7%	14.0%	-16.6%	-17.1%
成長型	0.3%	0.5%	13.9%	14.6%	-27.4%	-27.6%

※基準価額は全て信託報酬控除後のものです。また、収益分配金がある場合には税引前の全額を再投資したものととして基準価額の騰落率を計算し、推移をグラフ化します。

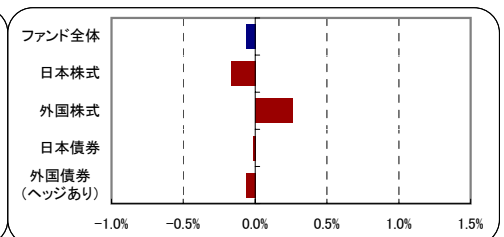
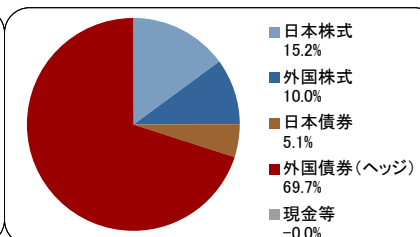
◆ 収益分配金実績 (税引前)

	安定型	安定・成長型	成長型
1期(2006年11月20日)	0円	0円	0円
2期(2007年11月19日)	0円	0円	0円
3期(2008年11月18日)	0円	0円	0円
設定来分配金累計	0円	0円	0円

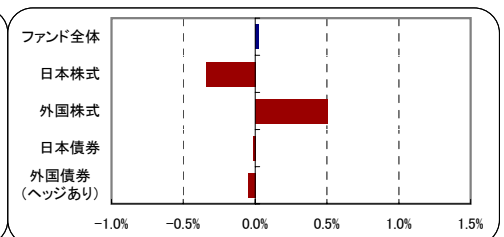
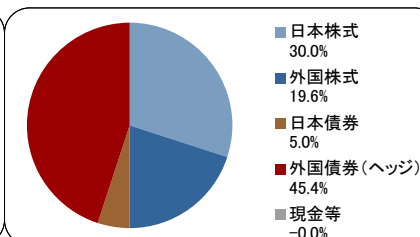
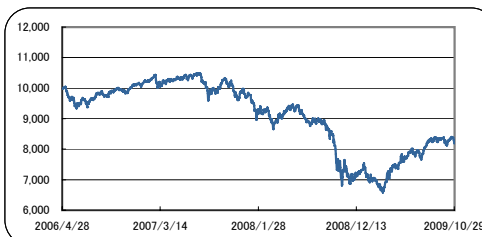
基準価額推移

組入構成比率
2009年10月末現在各資産区分の月間寄与度
2009年10月

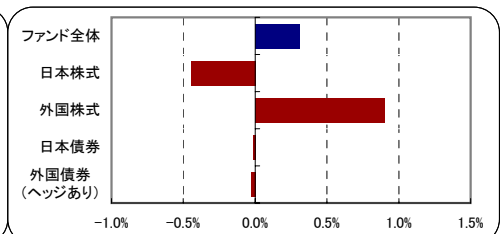
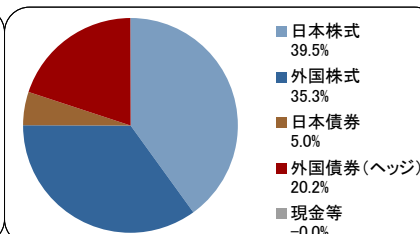
安定型



安定・成長型



成長型



※ライフポイントは「ラッセル 日本株式マザーファンド」、「ラッセル 外国株式マザーファンド」、「ラッセル 日本債券マザーファンド」および「ラッセル 外国債券マザーファンド」を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

※組入構成比、各資産区分の寄与度における外国債券には、いずれも為替ヘッジ分が含まれています。

※各資産区分の寄与度は、各ファンドの騰落率と、各ファンドで組入れる各マザーファンドへの配分を考慮し、簡便計算したものです。

※運用成果は過去の実績であり、将来の成果をお約束するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。

◆ 運用状況

10月は、安定型の基準価額が下落、安定・成長型、成長型の基準価額が上昇しました。資産ごとの状況を見ますと、外国株式が上昇し、プラス寄与となりましたが、国内株式、日本債券、外国債券(為替ヘッジあり)が下落し、マイナス要因となりました。10月は相対的に、外国株式の組入構成比率が高いファンドに有利な相場展開となりました。

(注) 安定型、安定・成長型、成長型の3つのファンドを総称して「各ファンド」といいます。

月次レポート

ラッセル 日本株式マザーファンド

◆基準価額騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
マザーファンド	-1.1%	-5.3%	11.3%	14.3%	-40.1%	-43.8%
ベンチマーク	-1.7%	-5.1%	7.5%	5.3%	-41.7%	-44.8%
超過収益	0.5%	-0.2%	3.8%	9.1%	1.7%	1.0%

株式保有上位10銘柄

組入銘柄数: 304 銘柄

上位10業種配分

銘柄	業種	組入比率※1	業種	組入比率※1	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.1%	電気機器	16.9%	14.4%	-0.4%
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.8%	輸送用機器	9.0%	10.2%	2.8%
日本電信電話	情報・通信業	2.7%	化学	7.5%	5.8%	-3.3%
トヨタ自動車	輸送用機器	2.6%	銀行業	7.2%	9.6%	0.3%
本田技研工業	輸送用機器	2.2%	情報・通信業	7.0%	5.6%	-5.2%
野村ホールディングス	証券、商品先物取引業	1.9%	機械	4.9%	4.6%	-1.4%
オリックス	その他金融業	1.7%	小売業	4.8%	3.6%	-3.9%
三菱商事	卸売業	1.7%	卸売業	4.7%	4.9%	2.0%
東日本旅客鉄道	陸運業	1.6%	陸運業	3.7%	3.9%	-7.2%
三井物産	卸売業	1.4%	食料品	3.2%	3.4%	-3.7%

※1 組入比率はラッセル 日本株式マザーファンドにおける株式評価額合計に対する割合です。

ベンチマーク: TOPIX(配当込み)

TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

◆運用状況

10月の国内株式相場は一進一退の展開となりました(TOPIX(配当込み)は前月末比1.7%下落)。こうした中、ラッセル 日本株式マザーファンドの基準価額は前月末比1.1%下落しました。国内株式相場は、円高による企業業績の悪化懸念等を受けて下落して始まりました。月半ばにかけて、米国企業の好決算等を受けて上昇に転じたものの、月後半には、世界的な景気回復見通しの後退、航空大手の再建問題や2010年度の予算編成に伴う財政悪化懸念の高まり等の民主党政権の政策に対する不透明感等が嫌気され、再び下落に転じ、最終的に前月末を下回る水準で終えました。スタイル別では、Russell/Nomuraグロース指数は1.9%の下落、同バリューストック指数は1.6%の下落となり、バリューストックや優位の展開となりました。

ラッセル 外国株式マザーファンド

◆基準価額騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
マザーファンド	2.5%	6.5%	25.3%	19.7%	-30.2%	-25.2%
ベンチマーク	-0.6%	2.0%	16.6%	10.3%	-33.9%	-27.9%
超過収益	3.1%	4.5%	8.7%	9.4%	3.7%	2.7%

株式保有上位10銘柄

組入銘柄数: 351 銘柄

地域別配分

銘柄	通貨	組入比率※1	地域	組入比率※2	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
NESTLE SA-REG	CHF	2.1%	北米地域	52.0%	57.9%	-1.1%
JPMORGAN CHASE & CO	USD	1.6%	ユーロ地域	16.9%	17.7%	-2.4%
INTEL CORP	USD	1.5%	ユーロ除く欧州	24.7%	17.8%	2.4%
GLAXOSMITHKLINE PLC	GBP	1.3%	その他	6.4%	6.5%	1.6%
APPLE INC	USD	1.1%				
CIE FINANCIERE RICHEMON-BR A	CHF	1.1%				
LVMH	EUR	1.1%				
BANK OF NEW YORK MELLON CORP	USD	1.1%				
TELEFONICA S.A.	EUR	1.0%				
THE WALT DISNEY CO	USD	1.0%				

※1 組入比率はラッセル 外国株式マザーファンドにおける株式評価額合計に対する割合です。

※2 組入比率はラッセル 外国株式マザーファンドにおける株式および先物等の評価額合計に対する割合です。

ベンチマーク: MSCI KOKUSAI(配当込み)

MSCIインデックスに関する著作権およびその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他、あらゆる形態を用い、インデックスの全部または一部を複製、配付、使用することは禁じられています。またこれらの情報は信頼のおける情報源から得たものでありますが、その確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。

◆運用状況

10月の海外株式相場は一進一退の展開となりました(MSCI KOKUSAI(配当込み)は前月末比0.6%下落)。こうした中、ラッセル 外国株式マザーファンドの基準価額は前月末比2.5%上昇しました。米国株式相場は、月前半は、市場予想を上回る企業決算や経済指標等を受けて景気回復に対する楽観的な見方が広がり、上昇基調となりました。しかし、月後半には、市場予想を下回る経済指標等を受けて景気回復への期待感が後退したこと等から下落基調に転じました。月末には、7-9月期の実質GDP(国内総生産)(速報値)の改善等を受けて反発する局面もありましたが、最終的に前月末を下回る水準で終えました。欧州株式相場もほぼ同様の展開となりました。為替市場では、対米ドル、対ユーロともに円安となりました。

(注) 設定来の騰落率は、ライフポイントの設定日(2006年4月28日)からの騰落率です。
なお、基準価額騰落率欄には、ライフポイント設定後に対応する期間のみ表記しています。

月次レポート

ラッセル 日本債券マザーファンド

◆基準価額騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
マザーファンド	-0.3%	0.9%	2.6%	3.9%	6.4%	8.1%
ベンチマーク	-0.4%	0.6%	1.3%	2.4%	7.0%	8.8%
超過収益	0.1%	0.4%	1.4%	1.4%	-0.6%	-0.7%

種別配分

種別	組入比率※1	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
国債	60.4%	74.1%	-0.5%
地方債	0.0%	6.8%	-0.4%
政保債	3.0%	5.3%	-0.4%
金融債	0.0%	2.0%	0.0%
事業債	22.3%	9.5%	-0.2%
円建外債	4.6%	0.8%	1.1%
MBS / ABS	0.0%	1.4%	-0.5%
その他	9.7%	-	-

※1 組入比率はラッセル 日本債券マザーファンドにおける債券および投資信託の評価額合計に対する割合です。

残存期間別組入比率※2

ファンド	5年以上	2年以上	2年未満
	50.4%	28.7%	20.8%

※2 組入比率はラッセル 日本債券マザーファンドにおける債券の評価額合計に対する割合です。

ベンチマーク: NOMURA-BPI総合指数

NOMURA-BPI総合指数は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は対象インデックスを用いて行われる弊社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

◆運用状況

10月の国内債券相場は下落(債券利回りは上昇)しました(NOMURA-BPI総合指数は前月末比0.4%下落)。こうした中、ラッセル 日本債券マザーファンドの基準価額は前月末比0.3%下落しました。国内債券相場は、月初の株式相場の下落等を受けて上昇して始まりました。しかし、その後は、株式相場の上昇や海外債券相場の下落、2010年度の予算編成に伴う国債増発懸念により需給悪化が意識されたこと等を受けて下落基調となりました。月末には、値ごろ感からの買い戻し等を受けて反発したものの、民主党政権での財政運営に対する不透明感が引き続き意識されたこと等から上値は重い展開となり、最終的に前月末を下回る水準で終わりました。

ラッセル 外国債券マザーファンド

◆基準価額騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
マザーファンド	2.5%	2.6%	7.2%	17.0%	2.8%	10.1%
ベンチマーク	1.9%	-1.2%	1.2%	9.3%	-2.6%	4.8%
超過収益	0.6%	3.9%	6.0%	7.7%	5.4%	5.3%

地域別配分

地域	組入比率※1	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
北米地域	37.3%	34.5%	1.0%
ユーロ地域	38.4%	52.2%	2.2%
ユーロ除く欧州	9.7%	11.6%	3.3%
その他	14.6%	1.6%	2.6%

※1 組入比率はラッセル 外国債券マザーファンドにおける債券および先物等の評価額合計に対する割合です。

残存期間別組入比率※2

ファンド	5年以上	2年以上	2年未満
	54.0%	28.6%	17.4%

※2 組入比率はラッセル 外国債券マザーファンドにおける債券の評価額合計に対する割合です。

ベンチマーク: シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティグループ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、世界主要国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

◆運用状況

10月の海外債券相場は一進一退の展開となりました(シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は円安のため前月末比1.9%上昇)。こうした中、ラッセル 外国債券マザーファンドの基準価額は前月末比2.5%上昇しました。米国債券相場は、月初は、値動きの小さい展開となりました。その後、経済指標の改善や市場予想を上回る企業決算、金融引き締め観測の高まり等を背景に下落基調(債券利回りは上昇)で推移しました。月末にかけて、市場予想を下回る経済指標や金融機関の破綻懸念等を受けて上昇に転じましたが、最終的に前月末を下回る水準で終わりました。欧州債券相場もほぼ同様の展開となりましたが、最終的に前月末を上回る水準で終わりました。為替市場では、対米ドル、対ユーロともに円安となりました。

(注) 設定来の騰落率は、ライフポイントの設定日(2006年4月28日)からの騰落率です。
なお、基準価額騰落率欄には、ライフポイント設定後に対応する期間のみ表記しています。

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称: ライフポイント®



追加型投信 / 内外 / 資産複合

外部委託先運用会社リスト

	マルチ・アセット 《資産区分》	マルチ・スタイル 《運用スタイル》	マルチ・マネージャー 《運用会社》
<p>安定型</p> <p>安定・成長型</p> <p>成長型</p>	日本株式	ラッセル 日本株式マザーファンド	JPモルガン
	外国株式	ラッセル 外国株式マザーファンド	ベイビュー
			GLG
			アライアンス・バーンスタイン
			ファンネックス・アセット・マネジメント
			マッキンリー
			マーシコ・キャピタル・マネジメント
			ハリス
			MFS
			アローストリート
			ビー・エヌ・ピー・パリバ
			リソナ銀行
	日本債券	ラッセル 日本債券マザーファンド	DIAMアセットマネジメント
	外国債券	ラッセル 外国債券マザーファンド	住信アセット
			ピムコ ジャパン
			コルチェスター
			ピムコ

ラッセル 日本株式マザーファンド

ラッセル 日本株式マザーファンドは、国内の取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPIX・配当込み)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を採用することにより、ファンド全体でリスクをコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グロース型、バリュート型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

グロース型

JPモルガン・アセット・マネジメント(日本) 22%

JPモルガンが当ファンド委託部分の運用に用いる投資アプローチは、利益成長性はあるが市場がまだ認識していない証券に投資することにより超過収益を追及します。「Growth at a Reasonable Price(成長株式を適正なプレミアム水準で投資する)」という基本方針の下、運用担当者による会社訪問を基本とする徹底したボトムアップ・アプローチによる調査・分析を行います。

グロース型

ベイビュー・アセット・マネジメント(日本) 18%

ベイビューは、企業業績や財務内容などのファンダメンタルズ分析に基づいたボトムアップと投資テーマを的確に捉えたトップダウンを巧みに融合した投資プロセスが特徴です。次世代をリードする企業の可能性、同業他社との競争優位性とその持続期間、業績衰退期における収益回復の可能性などを重視して銘柄を選択します。

バリュート型

GLGパートナーズ・インターナショナル(英国) 18%

GLGは、バリュート型運用の一手法である逆張り投資を投資方針としており、企業の本来価値に注目して割安に放置されている銘柄を発掘します。特に低PBR(株価純資産倍率)、高配当銘柄に着目することになります。ボトムアップの銘柄選択に重点をおくため、セクター配分は銘柄選択の結果であり、インデックスを意識したものにはなっていません。複数のリスクモデルはポートフォリオが意図しないところでリスクを取っていないかを確認するために使用されます。

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称: **ライフポイント**[®]



追加型投信 / 内外 / 資産複合

ラッセル 日本株式マザーファンド

バリュー型

アライアンス・バースタイン(日本、香港) 20%

アライアンスのバリュー株式運用は、綿密でかつ質の高い企業調査とクオンツ・モデルを併用し、現在の株価と本質的な企業価値の差を捉えることにより超過収益の獲得を目指すというものです。クオンツ・モデルを用いた業種内およびグローバル・セクター間での相対バリュエーション(投資価値)比較により銘柄を選別、更にアナリストが詳細な調査に基づき長期の収益およびパフォーマンスを予想、割安に放置されている銘柄を見出します。

マーケット・オリエンテッド型

ファンネックス・アセット・マネジメント(日本) 22%

ファンネックスは、日本株式に特化したブティック型の運用会社で、経験豊富で優秀なポートフォリオ・マネージャーと優れたアナリストからなるチームが運用を行います。運用プロセスは、市場の短期トレンドや将来中長期的に市場をけん引する投資テーマを分析し、詳細な企業リサーチを基に投資銘柄を選定します。

ラッセル 外国株式マザーファンド

ラッセル 外国株式マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(MSCI KOKUSAI・配当込み)を上回ることを目標として運用を行います。グロース型、バリュー型、マーケット・オリエンテッド型などの異なる運用スタイルを持つ運用会社を最適な割合で組み合わせ、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

グロース型

マッキンリー・キャピタル・マネジメント(米国) 10%

マッキンリーは、株価のモメンタム、企業収益の伸び、および収益面でのポジティブ・サプライズ(予想を上回る決算発表等)に注目する「グロース(成長)型運用」を行います。同社では、まず40,000以上の銘柄を対象に定量的な分析を行うことによって銘柄の絞り込みを行います。この結果に定性的な分析を加え、最終的には45-60銘柄程度から成るポートフォリオを構築します。

グロース型

マーシコ・キャピタル・マネジメント(米国) 20%

マーシコは、トップダウン・アプローチとボトムアップ・アプローチを組み合わせた運用を行います。今後株価形成に影響を与えられとされる市場のテーマおよびマクロ経済見通しをベースに、個別企業について面談を含む詳細な調査を行い、銘柄の絞り込みを行います。テーマやマクロ経済動向の観点を銘柄選択プロセスに織り込むことにより、多様な投資アイデアが生まれ、成長度の高い銘柄の発掘に繋がっています。

バリュー型

ハリス・アソシエイツ(米国) 15%

ハリスは、定性および定量分析に基づいて割安な銘柄を発掘し、それらに長期的な観点から投資を行います。具体的には、今後収益を生み出すことが期待でき、かつ株主を意識した経営を行っている割安な銘柄を投資対象とします。ベンチマークをあまり意識しない運用を行う結果、同社の構築するポートフォリオの国別およびセクター別の配分は、ベンチマークから大きく乖離することもあります。1銘柄、1セクターへのアクティブベット幅は厳格にコントロールされます。

マーケット・オリエンテッド型

エムエフエス・インスティテューショナル・アドバイザーズ(米国) 30%

MFSはファンダメンタルズ分析に重きを置いた銘柄選択を行います。銘柄選択プロセスは、各国に配されたアナリストが各国の事情を加味した企業分析を行った後、当該アナリストから成るグローバル・セクター・チームにおいて国・地域を越えた同業他社との相対比較を行うことによって推奨銘柄を選定、これを基にポートフォリオ・マネージャーが相対的に魅力度の高い銘柄を選択するというものです。ポートフォリオは、緩やかなグロース傾向を持ち、企業規模は市場平均よりやや小型寄りとなります。

マーケット・オリエンテッド型

アローストリート・キャピタル(米国) 25%

アローストリートはグローバル株式運用における豊富な経験を生かし、多面的なクオンツ型アプローチにより世界の株式市場に存在する魅力度の高い銘柄を探し出します。同社の主な超過収益の源泉は個別銘柄選択ですが、国やセクターの持つ影響も重視しており、国およびセクターで分けたバスケット毎に投資家行動などに起因する価格の歪みを捉えています。こうした「マトリックス・アプローチ」と呼ばれる手法は同社の調査・運用プロセスの特徴となっており、グローバル株式運用会社としての強みともなっています。

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称: **ライフポイント**[®]

追加型投信 / 内外 / 資産複合

ラッセル 日本債券マザーファンド

ラッセル 日本債券マザーファンドは、日本の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(NOMURA-BPI総合指数)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

金利戦略型

ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント(日本) 31%

ビー・エヌ・ピー・パリバは、グローバル債券運用で定評がある運用会社ですが、当ファンドでは、同グループの日本法人が、国債、地方債、政府保証債を中心に日本債券単独の運用を行います。ビー・エヌ・ピー・パリバの日本債券運用は、主な超過収益の源泉を、デュレーション(金利感応度)、イールドカーブ(利回り曲線)戦略等の金利戦略に求めます。

広範囲型

りそな銀行(日本) 20%

りそな銀行はデュレーション(金利感応度)戦略、イールドカーブ(利回り曲線)戦略、債券種別選択、個別銘柄選択といった様々な分野で優れたスキルを有しています。金利戦略においては、国内のみならず、海外にも幅広い視野と分析能力を有し、マクロ経済から需給まで精緻な調査活動を行っています。クレジット戦略においても、トップダウン的な観点からの債券種別選択と徹底した企業の信用調査による個別銘柄選択とをバランスよく行います。

広範囲型

DIAMアセットマネジメント(日本) 25%

DIAMは金利、クレジット/セクターの両戦略において、安定した超過収益の獲得を目指します。金利戦略部分では、投資家行動や需給分析に強みがあり、その分析能力を基に極めて短期的なポジションを機動的に数多く取ることで、超過収益の積み上げを図ります。クレジット/セクター戦略部分では、クレジットアナリストが定性、定量両面から精緻な信用力分析を行い、ポートフォリオ・マネージャーが個別銘柄選択を行います。また、投資ユニバースの拡充にも積極的です。

クレジット/セクター戦略型

住信アセットマネジメント(助言:住友信託銀行)(日本) 20%

住信アセットは住友信託銀行の助言により運用します。当ファンドではクレジット物に特化した運用を行い、債券種別選択と銘柄選択から超過収益の獲得を狙います。助言者の住友信託銀行は、質・量ともに充実したクレジットリサーチチームを有しており、定性・定量両面での優れた分析能力は効果的な債券種別選択・個別銘柄選択を可能としています。

収益源泉拡張型

ピムコ ジャパン(日本) 4%

収益源泉拡張型とは、日本債券のインデックスをベンチマークとしながら、一部外国債券市場にも超過収益を求める運用手法です。為替ヘッジ等により外貨への感応度はほぼゼロに、金利感応度についてもその殆どが日本の金利となるようにポートフォリオはコントロールされます。ピムコ ジャパンは、モーゲージ債等の複雑な債券やデリバティブ等の運用に優れており、リスクを抑えつつ、幅広い戦略から収益を獲得することを得意としています。

ラッセル 外国債券マザーファンド

ラッセル 外国債券マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース))を上回ることを目標として運用を行います。当ファンドの大部分は国債や、高い格付けの債券に投資されます。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。

マクロ・バリュー型

コルチェスター・グローバル・インベスターズ(英国) 24.5%

コルチェスターの運用スタイルは、各国の経済情勢や財政の健全性などのマクロ分析を通じて、相対的に高いリターンが見込める、割安感の強い国の債券および通貨を発掘するというものです。割安であるか否かの判断は、実質金利や購買力平価などを予測する同社独自の定量モデルを用いて行われ、この結果に定性判断を加味することにより国別および通貨別の配分が決定されます。

一般債重視型

ピムコ(米国) 75.5%

ピムコの外国債券運用の特徴は、多様な収益源泉に幅広く分散投資を行うことです。国債以外の債券(一般債)への投資を得意としており、モーゲージ証券の運用にはとりわけ優れています。その一方で通貨変動からはあまり大きな影響を受けないような運用を行います。

(注)各マザーファンドでは、キャッシュ・エクイタイゼーション(ラッセル 日本株式マザーファンドおよびラッセル 外国株式マザーファンドの場合)や他の外部委託先運用会社の変更時における資産の移転管理および一時的な運用等のために、上記の外部委託先運用会社の他に、「フランク・ラッセル・カンパニー」を採用しています。

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型/安定・成長型/成長型)

愛称: **ライフポイント**[®]

追加型投信/内外/資産複合

◎主な投資リスク

以下は各ファンドの基準価額に影響を及ぼす主なリスクであり、リスクは以下に限定されるものではありません。

1. 株価変動リスク

株価は国内外の景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受けます。一般に、株価が下落した場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

2. 株式の発行会社の信用リスク

株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が下落した場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

3. 金利変動リスク

債券は、金利の変動により価格が変動します。一般に金利が上昇した場合、債券の価格は下落し、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

4. 債券の発行体の信用リスク

債券の発行体が経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる(債務不履行)場合、もしくは債務不履行に陥ると予想される場合、債券の価格が下落し、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

5. 流動性リスク

各ファンドで短期間に相当金額の換金申込みがあった場合、組入れている株式や債券を売却することで換金代金の手当てを行いますが、組入れている株式や債券の市場における流動性が低いときには、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があり、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。

6. 為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となります。各ファンドでは、ラッセル 外国債券マザーファンドを通じて投資する外国債券に係る部分について、為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。為替ヘッジを行う際、円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストが発生します。

7. カントリーリスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因になり、また投資方針に沿った運用ができない可能性があります。

◎ご留意いただきたい事項

当資料はラッセル・インベストメント株式会社が各ファンドの運用状況等に関する情報の提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得のお申込みにあたっては、必ず投資信託説明書(目論見書)を販売会社でお受取りになり、内容をご確認の上、ご自身でご判断下さい。

1. 各ファンドは主に国内外の株式および債券を実質的な投資対象としますので、組入株式および組入債券の価格の下落ならびにそれらの発行会社の倒産または財務状況の悪化等の影響により、各ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、これらに加え外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、各ファンドの基準価額が下落し損失を被ることがあります。したがって、投資元金が保証されているものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負います。

2. 各ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、各ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のペビーファンドに追加設定・解約等を伴う資金変動等があり、その結果当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、各ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

3. 取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、委託会社の判断により、信託約款の規定に従い、各ファンドの取得申込み、換金申込みの各受付けを中止すること、および既に受付けた取得申込み、換金申込みの各受付けを取り消す場合があります。

4. 信託期間中であっても、一部解約等の影響により、純資産総額が小さくなった場合等には期日を繰り上げて償還することがあります。

5. 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元金の保証はありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負います。

6. 投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

7. 金融商品取引業者以外でご購入された場合、投資者保護基金の対象とはなりません。

8. 法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。

9. 投資信託は、書面による契約解除(クーリング・オフ)の対象ではありません。

10. 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

11. 資金動向、市場動向によっては投資方針に沿った運用ができない場合があります。

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称: **ライフポイント**[®]

追加型投信 / 内外 / 資産複合

ファンド概要

- 安定型・安定・成長型・成長型の3つのファンドの中から、ご投資の目的などに応じてご自由にお選びいただけます。安定性を重視される方、成長性を重視される方、安定性と成長性のバランスを重視される方、それぞれに適した3つのファンドをご用意しています。
- 3段階にわたって徹底した分散投資を行うことにより、リスクの低減を図るとともに中長期に安定した運用成果を目指します。「マルチ・アセット(資産区分の分散)」、「マルチ・スタイル(運用スタイルの分散)」、「マルチ・マネージャー(運用会社の分散)」という3段階の分散投資を行います。
- 世界中から優れていると判断される運用会社を厳選します。運用会社を継続的にモニタリングし、必要に応じて採用する運用会社の変更や追加等を行うことにより、最適と判断される運用会社の構成を目指します。

お申込みメモ

※詳細については投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

お申込み	原則としていつでも取得のお申込みができます。ただし、毎年12月25日には取得申込みの受付は行いません。各営業日の午後3時(平日営業日の場合は午前11時)までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。
お申込単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。
お申込価額	お申込受付日の翌営業日の基準価額
ご換金のお申込み	原則としていつでも換金ができます。ただし、毎年12月25日には換金の受付は行いません。各営業日の午後3時(平日営業日の場合は午前11時)までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。ご換金の代金は原則として、お申込受付日から起算して6営業日目からお支払いいたします。なお、大口のご換金は制限することがあります。
ご換金価額	ご換金申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	原則として無期限です。ただし、各ファンドともに、設定日から1年経過後、ファンドの純資産総額が30億円を下回ることとなった場合等には、繰上償還することがあります。
決算	年1回(毎年11月18日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。)
収益分配	原則として年1回、決算時に基準価額の水準等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないことがあります。
課税関係	各ファンドは、課税上、株式投資信託として取扱われます。個人の受益者については、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時および償還時の価額から取得費を控除した差益に対して課税されます。 (2009年10月末日現在の情報です。税法が改正された場合等は、上記の内容が変更になる場合があります。)

ファンドの諸費用について

※下記の費用(手数料等)については、お申込み金額、保有期間等により異なるため、あらかじめ合計金額等を記載することができません。

①お客様に直接ご負担いただく費用

お申 hands 手数料	販売会社がそれぞれ定める率とします。なお、手数料率は、2.1%(税抜2.0%)を上限とします。
ご換金手数料	ありません。
信託財産留保金	ありません。

②保有期間中に間接的にご負担いただく費用(信託財産から差し引かれるものでお客様に別途ご負担いただくものではありません。)

信託報酬	安定型 : 純資産総額に年1.2600%(税抜1.20%)を乗じて得た金額とします。 安定・成長型 : 純資産総額に年1.3125%(税抜1.25%)を乗じて得た金額とします。 成長型 : 純資産総額に年1.3650%(税抜1.30%)を乗じて得た金額とします。 各ファンドは、ファミリーファンド方式で運用します。各ファンドおよび各ファンドが投資対象とするマザーファンドは、外部委託先運用会社に運用委託をしております。その費用は上記の信託報酬に含まれております。 (注:税法が改正された場合は、消費税等相当額が変更になることがあります。)
その他費用	組入れ有価証券の売買委託手数料、外貨建て資産の保管および先物・オプション取引に要する費用、各ファンドの一部解約に伴う支払資金の手当てを目的とした借入金の利息、信託事務の処理に要する費用、信託財産に関する租税、受託会社が立て替えた立替金の利息・借入金の利息等 ※その他費用については、運用状況等により変動するものであり、あらかじめ料率、上限額等を記載することができません。

ファンドの関係法人

委託会社	ラッセル・インベストメント株式会社(信託財産の運用の指図、投資信託説明書(目論見書)および運用報告書の作成等を行います。) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号 加入協会(社)投資信託協会/(社)日本証券投資顧問業協会/日本証券業協会 TEL 03-5411-1515(受付時間:営業日の午前9時~午後5時(平日営業日の場合は午前9時~午前11時)) http://www.russell.com/jpin/
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社) 受託会社は、信託財産の保管・管理等を行います。
販売会社	販売会社一覧をご覧ください。 販売会社は、各ファンドの募集・販売の取扱い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行います。
外部委託先運用会社	フランク・ラッセル・カンパニー 各ファンドの外国為替予約取引の指図を行います。

ラッセル グローバル・バランス・ファンド (安定型 / 安定・成長型 / 成長型)

愛称：**ライフポイント**[®]

追加型投信 / 内外 / 資産複合

販売会社一覧

販売会社名 (50音順)	登録番号等		加入協会		
			日本証券業 協会	(社)日本証券 投資顧問業 協会	(社)金融先物 取引業協会
イーバンク銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第609号	○		○
株式会社 SBI 証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○
ジョインベスト証券株式会社*	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第91号	○		○
トヨタファイナンシャルサービス 証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第16号	○		
日興コーディアル証券株式会社 (投信スーパーセンター)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○

※ジョインベスト証券株式会社は、2009年11月10日以降、取得申込みの受付を行いません。
 なお、ジョインベスト証券株式会社は2009年11月23日をもって野村証券株式会社と統合します。